

2025年3月21日

学長との懇談会が開催されました。

参加者：齋藤学長、鈴木事務局長、総務部長、財務部長、人事課長、労務管理課長 他
組合：大野副委員長、木村副委員長、児島執行委員

まず、学長より、大学の財政と運営について話をし
ていただき、組合との懇談を行いました。



・本学の財政難を世論に訴える

学長：予算規模は年々増大しており116億円の増。
病院収入はアップしているが収益にはなっていない。
外部資金も増加はしているが人件費には使えない。
運営交付金は減少傾向にあり、平成17年から令和6
年まで9億円の減となっている。その中で必要経費
は年々増加し、人件費の割合が大きい。今年度の給
与は、人勧3%の増で5億円。施設整備費（光熱費や
工事費）も増加となっている。ただ私は、お金がな
いからと人を減らすことはしないでやってきた。何
か知恵があればうまく解決したい。

組合：本学の窮状を訴えるKNBのインタビューを見
たが、本当に世間に対してよく言っていたと思い
ます。国大協でもぜひ、学長の見解を訴えていた
だきたい。

学長：国大協も文科省も国民へ財務状況を訴え、味
方につけようとしている。予算についてもこの1～2
年が重要だ。奨学金制度も後押ししたい。外部資金
の獲得数は確実に上がってきているが、研究費とし
てしか使えないのはジレンマがある。

組合：学長がKNBインタビューで話された、大学全
体に対する支援が重要だというのは非常に同感。ぜ
ひ、今後も引き続き、非常に厳しい状況だというこ
とを世論に訴えていただきたい。

学長：マスコミの論点も変わったと思う。マスコミ
を味方につけ、継続的に繰り返し説明していきたい。

・授業料値上げは最後の手段

組合：一方で大学は授業料を値上げしたいという話
があり、もう一方で高校は無償化の話がある。今後
子弟を大学へ行かせたい親、また高校関係者などの
潜在的な利害関係者に大学の状況を効果的に訴えか
けていく必要があると個人的には思っている。そう
いう話を共有できればと思う。

学長：授業料を上げることは最後の手段と考えてい
る。給料その他の経費を削減しても、大学の基本的
な教育社会活動ができなくなったときには、授業料
の値上げをせざるを得ない。その段階で今年度は何
とか人勧対応ができたが、そのように追い詰められ
ていることが一般の方々に伝わっていない。国立大
学はこれだけの人材があり、これだけの経済を支え
てきたということはあまり知られていない。そのデー
タを示して、それらが国立大学の経済効果は上回る
くらいのものであるということを財務省も理解してく
れないと、なかなかお金を出してもらえない。

・人勧に準拠しようにも財源は国から出ない

組合：人事院勧告で、国家公務員に今回ベースア
ップをやりなさいという目安を出す、そう言うだけ
で、特にそれに従って財源となるお金を出してくれ
るという意味ではないということか。

学長：人勧については各法人がその裁量にゆだねる。
つまり給与をどう捻出するかはそれぞれで考えてく
ださいと文科省のQ&Aに書いてある。それを見てがっ

かりした。やはり国立大学だけれど国立ではない、そういう状況になっている。

事務局長：国立大学は基本的に人勸準拠して対応するようにと言いながら、そのための経費は絶対守らなければならないというものではないということが公式見解となっている。その中でもどうやってできる限り国家公務員の給与ベースを守れるか。各国立大学が苦肉の策を取っているところだ。

組合：無理な話を押し付けられても、国立大学では研究や教育のための経費というのものもある。そういう面で配慮していただきたいと思うが、国立大学法人とは不思議な仕組みだ。

組合：厳しい状況だということは一致できたと思う。

学長：財務状況は財務にかなり検討していただいたので、人件費アップは1年だが続ける。しかし人勸による人件費アップは1年で収まらないので、そういう状況において、人件費の確保は大変ご苦労されている。

財務：数百万見直して必要なところに執行をお願いするところだ。

学長：そういう形で、運営交付金を有効に使い切る。毎年、考えないとだめだ。

・「新しい教育」と大学院のあり方

組合：学長の唱えている「新しい教育」とは何か、何をもって「新しい」教育だということのか、一見古いものの切り捨てにつながらないか。

学長：私は入学式で、富大の三本柱、「英語教育、グローバル化、2040年に向けてどうあるべきか」について話している。データサイエンス、生成AIについても、どんどん進化しているのに合わせて教える必要がある。グローバル化については、日本の中でもかなりの外国人が一緒になって生活しているから、国内で企業活動をするにも、全世界に対して商品を売るにも、英語教育は最低限必要になる。また総合大学では立場の違う学部の人それぞれ分らない課題を力を出し合って方向性を見つけてやってみようという形の、三つの柱を中心にした。もう一つ授業の中で言われているのは、日本ではどちらかというと平均の学力を上げるという方針だったが、2～3年ぐらい前からかなり変わってきて、個性を伸ばす教育をするよう文科省から言われている。こういうところも富山大学では伸ばしていただきたい。それと、ここは難しいと思うが、自分のことだ

けを主張するのではなく相手のことを思いやる。実際にやってみて体験してみるといったことも伸ばしていただきたい。そうして総合的な専門教育をやっていながら社会に生かしてほしいと思っている。学生に選ばれることが大切だ。学生主体だから、学生をいかに教育してあげるか。これらを打ち出していけば少子化になっても優秀な高校生は来てくれるのではないかとと思っている。従来型の学問も古いから必要ないとは思っていない。

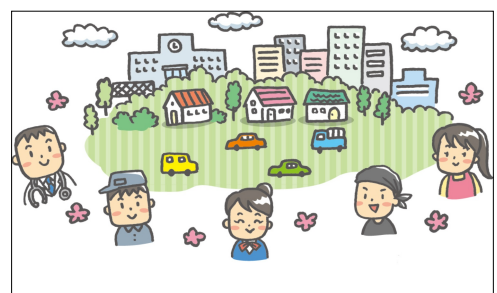
組合：人文学部でも大学院は改組され優秀な学生が来ていると思う。他学部では理想を掲げてやっていけるかという意見もあって、特に、人員が削減されていることは大きな障害があると感じている。

学長：中教審の「高等教育の在り方」として、人文社会系の学士・修士一貫教育が必要だという方向が示された。中教審答申は私大も国公立大も対象だが、国立大学は率先してやっていただきたい。教職プログラムに関しては、修士号が必須の北欧の国が参考になる。

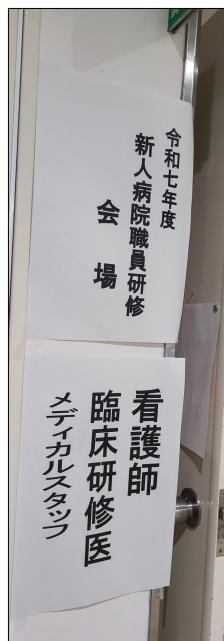
組合：教職に限らず海外では修士号をとることがスタンダード化し、日本は相対的に「低学歴」化していると言われる。社会全体が修士で学んだ人を受け入れるように、理系はなってきたが、人文社会系に関しては、教師も含めてそういう状況になっていないと思う。文系の大学院入学者も増えてきているが、出たところでかえって損になるのが現状だ。大学院の出口はどうなっているのか。

学長：芸術系で独立した人を除いて、99%ぐらいが卒業して就職したと聞く。全国平均で言うと、文系の大学院は就職率が高い。高度なことを学んだ優秀な学生を取りたいという希望がかなりあるので、富山大学の人文社会系の大学院も地域貢献につながっている。あとはデータサイエンスとSDGs。経済のデータサイエンスは2名しかいない。せっかく文理融合でできたのに活用されていない。本当は文系と理系、半々ぐらいがいいと思っている。

人事課：そろそろ予定の時間になります。



組合説明会を開催しました。



4月1日（火）杉谷地区で開催された「新人職員研修会」の場で、組合説明会を開催

今年は、杉谷地区で4名、五福地区で3名が組合に加入されました。

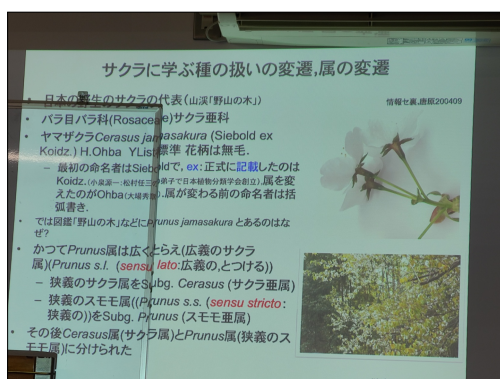


組合・ミニミニ講座を4/7に開催

ちょうど桜の花が満開だったので「お花見」と題して、ミニミニ講座を行いました。

参加者は、少なかったのですが、構内の桜の種類が沢山あることも知りました。

また、植物の宇宙実験の話など、美味しいお弁当を食べながら、あっという間のひと時でした。



次回の「ミニミニ講座」のお知らせ

労働条件・給与について

組合員・未組合員問わず参加できます

みんなで考えよう！！

私たちの働き方

「教員の任期制・年俸制」とは？

「事務職員の働き方」

を予定しています。

第二弾：「教員の任期制・年俸制」について

日時：2025年6月25日（水）18：30～

場所：経済学部 大会議室

講師：富大教職組 大野圭介副委員長

*** 弁当、用意します（参加申し込みは6/16までにメールで）**

メール：toyama@tu-union.org

職場の環境を良くしませんか。

みなさんの「声」がたくさん集まると、労働条件等を改善する大きな力になります。ぜひ、教職員組合にご加入ください。

